平成２０年度　長期社会体験研修　修了報告書

研修員　篠 原　宏 司　（中学校教諭）

研修機関・部署名　有限会社　武　井　農　園

１　研　修　内　容

武井農園（富岡市）　野菜出荷業務　契約農家から仕入れた季節ごと各種の野菜をそれぞれに適した袋詰めや梱包を行い、八百屋、スーパー、食品加工などの業務店へ注文に応じた発送を行う。

養 鶏 業 務　およそ５千羽におよぶ放し飼いの卵鶏が産卵する良質の卵を採卵・洗浄・梱包し、各業務店のニーズに応じ迅速に出荷を行う。

ｷｳｲｰﾌﾙｰﾂ栽培業務　年間を通じてのキウイーフルーツの栽培業務。(枝の剪定・花粉採集・人工受粉・摘果・採光・収穫・選別の作業等を行う。)

その他の研修（上半期）　福島県喜多方市小学校農業科活動視察（５/14･15）
科学飼料研究所（５/21）　椎茸ほ場診断会（５/30）
ぐんま食育フェスタ（６/７・８）　加部農園玉ねぎ収穫（６/10～13）
三輪農園田植え作業（６/24～30）　群馬県庁食品安全課（７/４）
農薬理解推進事業（８/26、９/11･25、10/７、11/４）
妙義産業マイタケ生産工場（９/16～18）

（下半期）　関東ブロック農業法人会研修会　東京都 八丈島　(11/５～７)
全国農業法人協会研修会　岐阜県　(12/４・５)
ﾛﾏﾝﾁｯｸﾃﾞｰﾘｰﾌｧｰﾑ酪農　昭和村　（１/13～16）
勢多農林高校ﾊﾞｲｵﾃｸﾉﾛｼﾞｰ　前橋市　（２/９～13）
ぐんま食農教育フォーラム　前橋市　（２/21）

２　研修から学んだこと

（１）現代社会の農業

食の問題に注目が集まっているさなか、農業を通じた社会体験研修は大変に意義深く、たくさんのことを学ぶことのできる研修であった。農業の現場に入り、産地や減農薬により高い安全性を求められる最中、生産者がいかに苦労して農作物の生育にあたっているかということを知ることができた。また、就農者の高齢化、農村地域の過疎化など現代社会における農村の現状、それ

に対抗すべく集団化、法人化などといった今後の農業生産者の新しいあり方などについても知ることができた。さらに、異なる農業業種ごとに実践されている創意工夫点や抱える課題なども僅かではあるが覗い見ることもできた。

（２）日常の業務から

精密機器などと比較すると、農産物品物のひとつひとつから得られる利潤は決して高いものではない。さりとて食に通ずる農作物は一日たりとも欠くことのできない必需品でもある。毎日の業務からは、日々行われる作業をいかに高能率化して、コスト低下を実践していくかということや、加工品の開発、出荷に向けた袋詰めの際に、どこでどのように商品価値を高めていくか、夏の暑さや冬の凍結、輸送の際の物理的なストレスにいかに耐えうる梱包を行うかなど、綿密に工夫を重ねていくことの大切さを知った。さらに経営面からは、あらゆる機会を通じ、各方面からたくさんの情報を得て経営努力を傾注し続けていることなどを学んだ。そして、社員同士がコミュニケーションを互いにとりながら仕事に対して､常に向上心をもって取り組む姿勢に感心した。

３　所感

（１）自己評価

約一年が過ぎて最低限の働きはできるようになったとは思われるが、先の見通しを持って無駄なく仕入れや在庫管理等を行っていくことは容易なことではない。しかし学校の現場においても先を読みながら指導を行っていく力は大いに求められることである。働いた仕事が最大限の効果をもたらし、好循環を生み出していくためにも、自らの先読みの力量が高められるように今後も努力していきたい。また、生産者の立場という視点は教員生活ではなかなか想像できなかった。しかし、日常の業務の中で、質や量をコスト面でどう抑えるかを考える「売る側」と良質のものをなるべく多く求める消費者である「お客さん」の考えが少なからず理解できるようになったことは大きな収穫である。学校においても、教える側と教わる側との双方の視点や考えをもって教育を行うのと、そうでないのとは大きく効果や到達点が変わってくるのではないかと感じた。

（２）学校教育との関わり

目新しいことが多く、学ぶことばかりが主体ではあったが、農業のもっている様々な教育的な価値に気付くことが出来たと思う。一例をあげれば、子供達の情操への好影響がある。農作業は大地や生命に直接触れることのできるかけがえのない経験であり、食農教育は現代の教育問題に一石を投じるような原石ではないかと思う。そして、自然なサイクルで収穫された野菜や果物に触れ、味わい、旬というものを感じることは、便利な経済社会が麻痺させてしまった、子供達や大人である私達に欠けてきている､「食を通じた季節感｣という大切な感覚ではないかと感じた。

本研修で学んだことを現場に戻った際に、食農教育として学校や学年、学級や部活動などの特別活動を通じて実践したいと考えている。このことが、たとえ僅かであっても、農業就業者の若返りや日本の食料自給率の向上に、寄与できれば幸いである。そして何よりパソコンやゲーム、携帯電話などでは得られない、大地や自然と触れ合う絶好の機会となり、子供達に力強く「生きる力」をつけてくれるのではないかと期待している。

（３）　おわりに

この研修に御理解をいただき、御指導、御協力下さった武井農園を中心とする群馬県農業法人協会、各農業経営体、農業関連機関の皆様には心から感謝申し上げます。特に武井農園社長、社員の方々には温かく迎え入れていただき、楽しく充実した研修を終えることができ、本当にありがとうございました。さらには、研修の機会を与えて下さった校長をはじめとする本校職員、群馬県教育委員会、群馬県総合教育センターの各先生方に深く御礼申し上げます。